

校内研修担当者や学力向上コーディネーター等の先生方に読んでいただきたい!



組織的・日常的な「授業改善」につながる校内研修ガイド

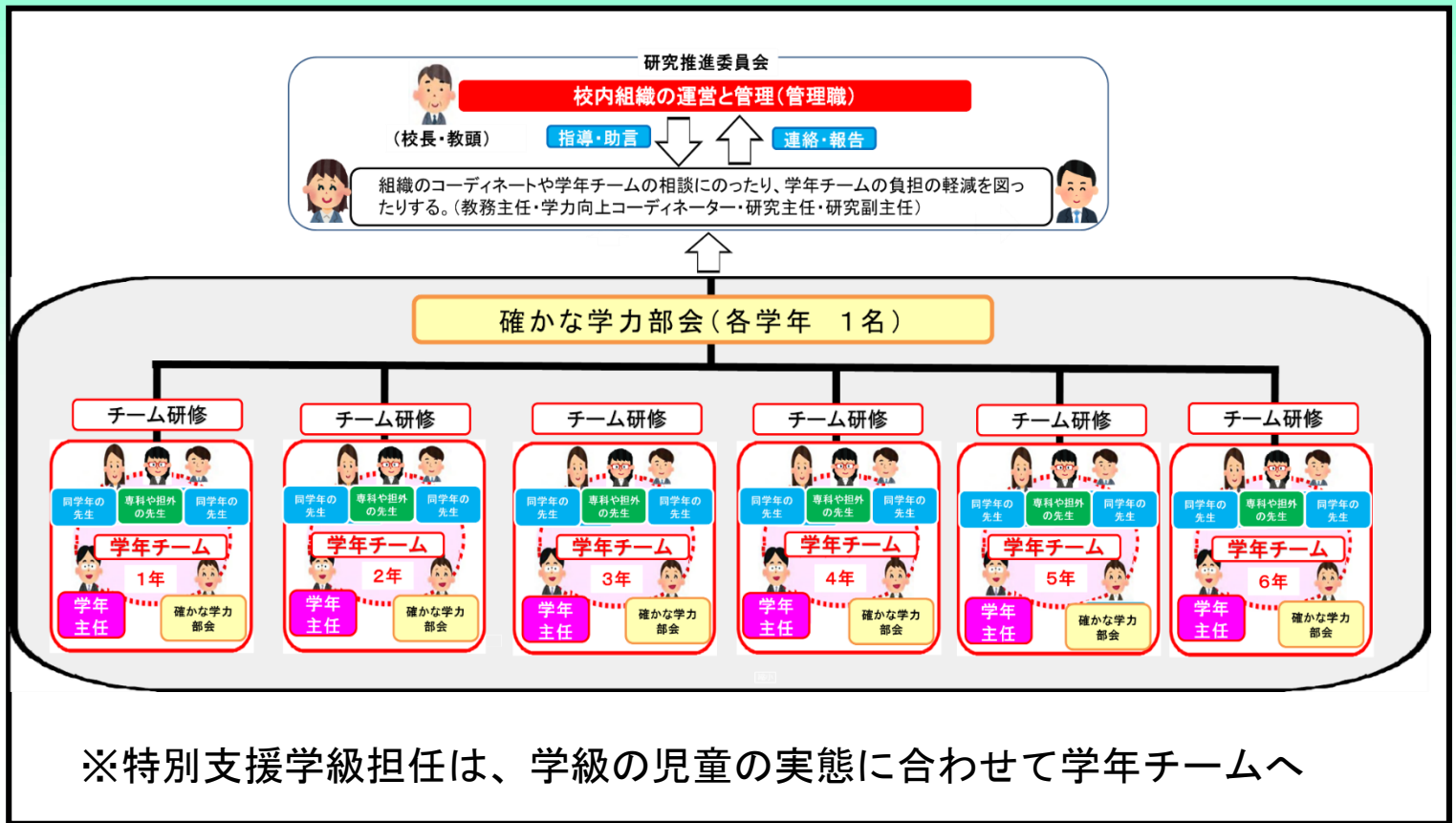
学力向上への主な鍵は、「授業改善」です。この「授業改善」による学力向上を推進していくための校内研修の在り方を「組織的」「日常的」の視点から紹介します。



令和4年度調査研究協力校である荒木小学校の校内研修の取組を参考に作成しました。

組織的な「授業改善」

チーム研修による校内研修の推進



※特別支援学級担任は、学級の児童の実態に合わせて学年チームへ



各学年チームでは、学年主任や研修部員が中心となり、研修を推進していきます。

研究主任等は各学年主任と連携を図り、研修日程の連絡調整、進捗状況の確認、授業改善等へのアドバイザなどのマネジメントを行います。



研究主任等

【チーム研修のよさ】

- 学年会の折に、チーム研修を位置付けることで継続的、効率的に推進できる。
- 学年チームに所属する先生方の強み(指導性)を生かして授業改善を図ることができる。⇒若年教員へのOJTとしても有効

日常的な「授業改善」

授業改善シートによる校内研修の推進

授業改善シート

〇〇学校校内研修 授業改善シート

【P段階】

- 実施時期 ()月
- 実施教科等及び単元名 ()科 単元名「 」
- 今回の取組で目指す児童の姿及び高めたい教師の指導力量

【育成したい児童の姿】

【高めたい教師の指導力量】

【D段階】

段階	主な学習活動及びねらう児童の姿	教師の主な支援
展開 前段	○(例) 既習内容の流れ図を振り返り、本時の課題に対する見通し(ゴールイメージとプロセスイメージ)をもつ。 【期待する児童の姿】 「学び箱」を見ながら、『正方形の面積の公式や長方形の面積の公式が使える図形に、分けるなどの記述があること。』	○(例) 本時の課題に対する見通しをもたせるために、Chromebookにある「学び箱(既習内容)」を振り返らせたり、机間指導をしたりする。

【C段階】

- D段階で取り組んだ授業の成果と課題を分析

【育成したい児童の姿】	【高めたい教師の指導力量】
○成果	○成果
●課題	●課題

【A段階】

- 次の取組に向けて

【育成したい児童の姿】	【高めたい教師の指導力量】

※「授業改善シート」は荒木小学校の「授業1ミリ改革シート」を基に、再考したものです。

活用手順①【P段階】チーム研修にて

- ・各学年で実施する時期、教科等、単元を設定
- ・育成したい児童生徒の姿を設定
- ・高めたい教師の指導力量を設定

活用手順②【P段階】チーム研修にて

- ・実施予定単元(本時学習活動)における支援の焦点化(導入、展開、終末)
- ・育成したい児童生徒の姿の具現化に向けた拠氏の支援の具体と学習活動を設定

活用手順③【D段階】

- ・P段階で計画したことを基に、授業を実施

活用手順④【C段階】

- ・D段階における授業で実施した学習活動や教師の支援の有効性について、「授業診断セルフチェック」を使って成果と課題を検討(※下記参照)

活用手順⑤【A段階】

- ・C段階で検討した成果と課題を基に、次のP・D段階で実施する単元、学習活動及び教師の支援の在り方を検討

C段階における「授業診断セルフチェック」の活用とは？

教師用

授業診断セルフチェック

ステップ	診断項目	診断
1 導入	問いを見いださせるために、既習内容とのズレ、考えのズレを意識させる発問や教材提示等をした。	4・3・2・1
2 めあて	子どもたち自身にめあてを考えさせた。	4・3・2・1
3 見通し	問題解決の見通しをもたせるために、既習内容や既習経験を想起させた。	4・3・2・1
4 個人思考	自分の考えを、根拠を基に理由付けて書かせた。 〔「わたしは…だと思います(主張)。なぜなら、…から(根拠)。…と考えられるからです(理由)。〕〕	4・3・2・1
5 集団思考	本時の問題を解決する考えを明らかにするために、複数で考えを繰り返させた。	4・3・2・1
6 まとめ	子どもたち自身にまとめを考えさせた。	4・3・2・1
7 振り返り	「何が分かったか」だけでなく、「どのようにして分かったか」「学びをどう生かしたいか」についても振り返らせた。	4・3・2・1

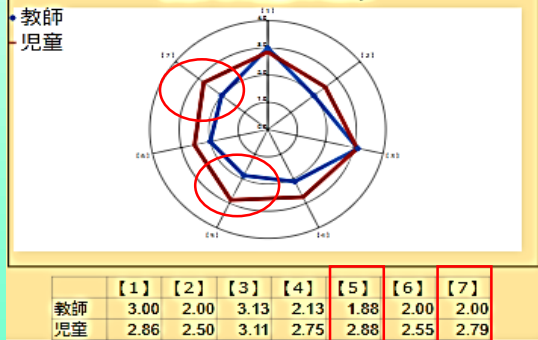
児童用

学習セルフチェック

学年	組	氏名	月	日
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

1. 実証単元終了後、教師、児童それぞれに実施(Googleフォームにて入力)。
2. 入力したデータをレーダーチャートで表示

教師と児童の結果



3. レーダーチャートの教師と児童のポイント差が大きい箇所等から学習活動や支援の有効性を検討

組織的・日常的な授業改善に向けて

チーム研修PDCAサイクル（例）

○月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	P段階	31		

△月

月	火	水	木	金	土	日
			1	D段階		4
5	6	7	D段階	9	10	11
12	13	14	D段階	16	17	18
19	20	21	C段階	23	24	25
26	A段階	28		29	B段階	

【授業改善シート・授業セルフチェックのよさ】

- 単元（本時学習）における学習活動や教師の支援の在り方を焦点化することで検証がより具体的に行うことができる。
- 児童生徒のノート、様相観察等だけでなく、授業セルフチェックのデータを組み合わせて、より客観的な視点も取り入れながら、授業改善について検討できる。



今年度の調査研修（学力向上研究班）の詳細については、下記のQRコードから動画を参照ください。
※調査研究の動画は、「久留米市内限定」になっています。



【令和4年度 学力向上研究班】

教育センター 指導主事 深野 優圭里、三池 暁久
学力向上調査研究協力校 久留米市立荒木小学校